

平成22年12月18日

社団法人全国栄養士養成施設協会  
会 員 様

兵庫県立大学環境人間学部  
教 授 伊達 ちぐさ

管理栄養士教育システム構築に関する基礎調査のお願い（依頼）

師走の候、貴施設ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平成22年度厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）の交付を受け、「保健・医療の栄養管理サービスの評価に基づく専門的人材育成のシステム構築に関する研究（H22－循環器等（生習）－指定－016）」の主任研究者を務めさせていただいております。今夏の管理栄養士養成施設のシラバス収集に際しましては格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

本研究課題は、保健・医療サービスの場で、管理栄養士が栄養管理の専門職として、社会の要求に応えることができる人材として養成されるためのシステム構築を目的としています。この度、栄養管理に関するコンピテンシー（専門的な実践的能力）の指標を開発し、全国の管理栄養士養成施設の4年生全員（約8,500名）を対象に、卒業時のコンピテンシー指標到達度についての調査を実施することになりました。

つきましては、ご多忙のところ誠に恐縮でございますが、本調査へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

尚、本調査は個人の能力や養成施設ごとの実態を調べるものではなく、得られた情報は厳正に管理され、本研究事業の目的以外には使用されないことを申し添えます。

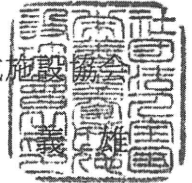
全栄施協発第 88 号

平成 22 年 12 月 18 日

会 員 殿

社団法人全国栄養士養成施設協会

会 長 木 村



### 管理栄養士教育システム構築に関する基礎調査のお願い（依頼）

先に管理栄養士課程のシラバスのご提出をお願いいたしましたところ、ご協力いただき厚くお礼申し上げます。

その後、研究班の方々から同封いたしました調査表にご協力いただき、前回のシラバス並びに今回の調査結果を勘案した上で、管理栄養士教育システムを構築するための資料として、活用したい旨の要望が出されております。

つきましては、何かとお忙しいところ誠に恐縮でございますが、今後の管理栄養士教育にとって、有益な結果をもたらすものと思いますので、是非ご協力の程をお願い申し上げます。

## 調査に際しての説明

この度は「管理栄養士教育システム構築に関する基礎調査」にご協力を賜りありがとうございます。質問用紙、マークシート、返送方法等のご説明をいたします。よろしくお願いいたします。

1) 調査用紙の種類は3種類です。(下図をご参照ください)

記入に際しては、表紙に説明が記載されているのでよくお読みください。

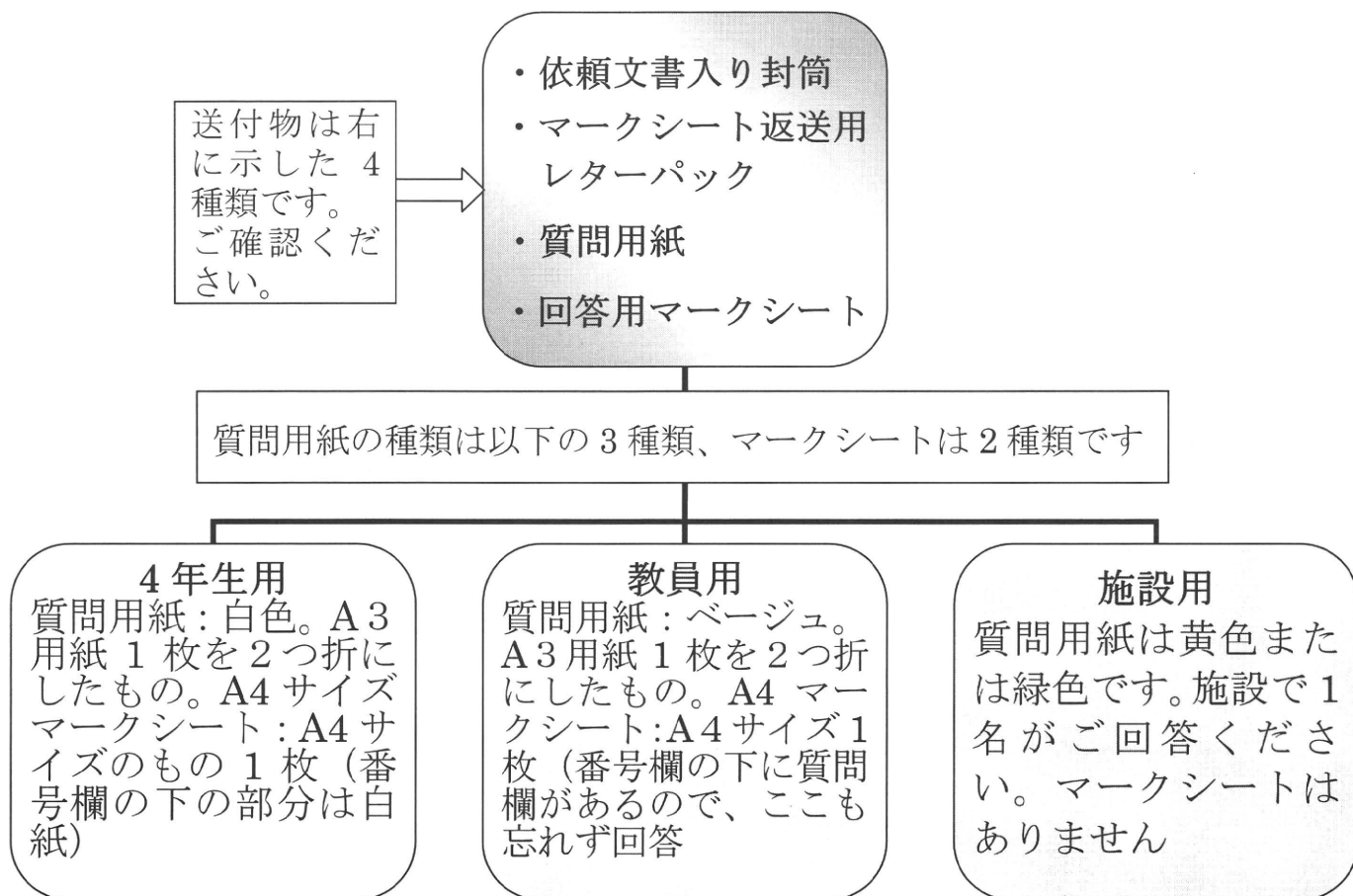
2) 学生の調査用紙と回答用マークシートは貴施設の定員数の2割増の枚数をお送りします。(ただし、定員が200名以上の場合には、調査用紙のみ2割増より5枚程度少なくなっています。)

3) マークシート返送用レターパックは通常は1部お送りいたします。ただし、定員数が多い場合は複数部お送りしていますので、適当に分割してご返送ください。

4) マークシート返送用レターパックには送付先とご依頼主の場所にシールを貼ってあります。マークシートを入れて封入すれば、そのままポストに投函していただけます。また、予めレターパックに返送物の枚数を記入する用紙を入れてありますので、ご記入のうえ同封してください。

投函の前に「ご依頼主様保管用シールをはがしてお手元に保管してください。

5) マークシート返送期日は平成23年1月20日です。



返送時のチェックリスト（この用紙は返送時同封）

同封した返送物は次の通りです。

（同封用紙の前の口にチェックを入れ、学生用マークシートの枚数を記入してください）

管理栄養士養成施設用（A4用紙1枚です）

教員用マークシート（4枚です）

学生用マークシート  枚です

## 管理栄養士教育システム構築に関する基礎調査

平成22年度厚生労働科学研究事業

「保健・医療の栄養管理サービスの評価に基づく専門的人材育成のシステム構築に関する研究」

1. 管理栄養士課程の4年生（平成22年度現在）が答えてください。
2. 本調査は試験ではありません。また、個人の能力や養成施設ごとの実態を調べるものではありません。得られた情報は厳正に管理し、標記研究事業の目的以外には使用しません。
3. 本調査は任意の調査であり、回答しないことによって不利益を被ることはありません。
4. 調査票は、あなた自身の管理栄養士としての専門的な実践能力（コンピテンシー）の到達度に関する質問（問1～40）と、年齢などの基礎項目に関する質問（問41～52）を含みます。該当する質問にもれなく答えてください。
5. 回答は、別紙のマークシートに、次のことに注意して記入してください。

### マークシート記入上の注意点

- (1) マークシートは1枚です。
- (2) 左上の氏名、年月日、および番号欄は空白のままにしてください。
- (3) マークシートでは、各質問に対する答えを1～5の数字の中からあてはまるもの1つを選び、マークシート上の該当する番号をはっきりとマークしてください。
- (4) 必ずHB～Bの濃さの鉛筆かシャープペンシルを使用してください。ボールペンやペンは使えません。
- (5) マークのしかたが薄いもの、正しくマークされていないものは読み取れません。
- (6) 間違ってマークしたところを訂正する場合は、鉛筆のあとが残らないように、プラスチック消しゴムで完全に消してください。修正液など消しゴム以外のものは使えません。
- (7) マークシートは折り曲げないようにしてください。

**I. 1～40の項目について、あなたにもっともあてはまる回答を、1～5よりひとつ選び、マークシートにその番号をマークしてください。**

問1～4では、あなたの職業意識についておたずねします。

各設問への回答を1～5の番号で教えてください。

- |   |
|---|
| 1: 全くそう思わない<br>2: そう思わない<br>3: どちらともいえない<br>4: そう思う<br>5: かなりそう思う |
|---|

- 
- 1 管理栄養士という職業に就くことを誇りに思う
  - 2 自分は、管理栄養士という職業に向いている
  - 3 食を通して人々の健康と幸せに寄与したい
  - 4 管理栄養士としての専門的な知識と技術を向上させたい
- 

問5～40は管理栄養士としての専門的な実践能力に関する項目です。あなたはこれまで学んできたことを基礎として、現時点でどの程度できると考えますか。1～5の番号で教えてください。

- |   |
|---|
| 1: 全くできない<br>2: できない<br>3: どちらともいえない<br>4: できる<br>5: 十分にできる |
|---|

- 
- 5 コミュニケーションによって、良好な人間関係やネットワークを築く
  - 6 自分に与えられた役割を認識し、他の職種と相互理解しながら協働する
  - 7 患者・クライアント・住民への倫理的配慮（人権の尊重、インフォームドコンセント、個人情報保護）を行う
  - 8 健康・栄養に関する統計情報を収集し、現状を把握する
  - 9 関連分野の論文・報告書などからエビデンスに基づく情報を入手し、活用する
  - 10 社会における医療・栄養問題や食糧・環境問題に関する情報を集める
  - 11 個人や地域の栄養課題の解決のために、調査研究を計画・実施する
  - 12 調査研究により得られたデータについて、適切な集計・統計方法を選択し、解析する
  - 13 人体のエネルギーバランスや各栄養素の働きや代謝を理解し、説明を行う
  - 14 食品成分・特性について理解し、献立作成や調理を行う
  - 15 対象者のライフステージ・ライフスタイル・嗜好・摂食機能等に応じた献立を作成する
  - 16 食中毒予防など、適切な衛生管理を行う
  - 17 食品の規格基準、安全に関する法規や制度を理解し、健康被害を防止するための説明を行う
  - 18 保健・医療・福祉・健康づくりに関する法規や制度の現状を把握する
  - 19 対象者（対象集団）のエネルギーや栄養素の摂取の過不足を防ぐため、食事摂取基準を活用する
  - 20 食品成分表の特性を理解し、献立作成や栄養教育に活用する

(マークシートの列が変わります)

- 21 対象者の行動変容を促すために、行動科学の理論やモデルを活用する
- 22 対象者の状況を受容し、行動変容を促すために、カウンセリングのスキルを活用する
- 23 目的や対象者に応じた食事調査法を選択・実施し、アセスメントに用いる
- 24 対象者・喫食者の食に関する知識、態度、行動をアセスメントする
- 25 対象者の身体状況や目的に応じたアセスメント方法を選択し、実施する
- 26 血液及び尿中の代表的な生化学成分値を判定し、アセスメントに用いる
- 27 問診、カルテ、看護記録やバイタルサインなどの情報をアセスメントに活用する
- 28 アセスメントの結果から食生活の改善すべき課題を抽出する
- 29 課題の中から優先順位を決定し、食生活改善のための目標を設定する
- 30 食生活改善のための目標の達成に向けた計画を立てる
- 31 対象者のライフステージやライフスタイルに応じた栄養教育を実施する
- 32 計画実施中や実施後の経過をモニタリングし、評価を行う
- 33 評価に基づき、必要な計画の見直しと修正を行う
- 34 疫学的な考え方にに基づき、地域のアセスメントをする
- 35 地域の栄養課題を解決するのに必要な社会資源を把握する
- 36 地域の栄養課題を解決するために、ヘルスプロモーション、食環境整備の観点を含めて改善計画を立てる
- 37 医療における専門職種役割を理解し、管理栄養士の役割について説明を行う
- 38 患者の病状や栄養状態に応じた献立作成や食事形態の提案を行う
- 39 患者の病状や栄養状態に応じた栄養指導を行う
- 40 多数の人々への食事提供（発注、購買、検収、保管、大量調理、衛生管理等）を行う

(マークシートの列が変わります)

**Ⅱ. あなた自身のことについておたずねします。それぞれの質問について、回答をひとつ選び、マークシートにその番号をマークしてください。**

- 41 年齢をお答えください。  
1 21-25歳    2 26-30歳    3 31-35歳    4 36-40歳    5 41歳以上
- 42 性別をお答えください。  
1 女性            2 男性
- 43 入学前に、他の大学・短期大学・専門学校等を卒業していますか。  
1 はい            2 いいえ
- 44 入学前に、社会人の経験がありますか。  
1 はい (問 45 にすすむ)    2 いいえ (問 46 にすすむ)
- 45 社会人経験者 (44 で「はい」とお答えの方) におたずねします。栄養士で就職していましたか。  
1 はい            2 いいえ
- 46 H23年3月卒業見込ですか。  
1 はい            2 いいえ

- 47 卒業研究を行いましたか。または、行っていますか。  
1 はい 2 いいえ
- 48 H23年3月に国家試験を受験する予定ですか。  
1 はい 2 いいえ
- 49 卒業後の進路をお答えください。  
1 就職（内定）（問51・52にお答えください）  
2 就職（未定）（これでアンケートは終わりです）  
3 進学（内定）（問50にお答えください）  
4 進学（未定）（これでアンケートは終わりです）  
5 その他（これでアンケートは終わりです）
- 50 進学（内定）の方におたずねします。あなたの進学先をひとつマークしてください。  
1 大学院（栄養関連分野）（これでアンケートは終わりです）  
2 大学院（上記以外）（これでアンケートは終わりです）  
3 他大学（上記以外）（これでアンケートは終わりです）  
4 専門学校（上記以外）（これでアンケートは終わりです）  
5 その他（これでアンケートは終わりです）
- 51 就職（内定）の方におたずねします。採用条件となる免許は次のどれですか。  
1 管理栄養士免許 2 栄養士免許 3 どちらでもない 4 不明
- 52 就職（内定）の方におたずねします。あなたが勤務する予定の職場を下からひとつ選び、52～53のマークシート欄に、記入例にならって記入してください。
- 11 行政（保健所・保健センターなど）  
12 病院（病院・医院・老健など）、検診センター  
13 学校（幼稚園・学校・給食センターなど）  
14 企業または事業所（従業員の健康管理など）  
15 給食受託企業（給食会社）  
21 高齢者福祉施設（老人ホーム・デイサービスセンターなど）  
22 児童福祉施設（保育所など）  
23 障がい者施設（心身障がい児施設・身体障がい者療護施設など）  
24 その他の福祉施設  
31 企業（栄養や食品に関連がある仕事）  
32 企業（製薬会社・薬局など）  
33 企業（上記以外）  
34 起業  
35 自営  
41 研究教育（管理栄養士・栄養士養成施設）  
42 研究教育（管理栄養士・栄養士養成施設以外）  
43 研究機関  
51 配属先未定（公務員）  
52 配属先未定（公務員以外）  
53 その他

**マーク記入例**

「12 病院」をマークする場合  
問52（10の位として使用）の「1」と  
問53（1の位として使用）の「2」の  
2つをマークしてください。

52	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
53	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

~~~~~ これでアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。~~~~~





## 管理栄養士教育システム構築に関する基礎調査

平成22年度厚生労働科学研究事業

「保健・医療の栄養管理サービスの評価に基づく専門的人材育成のシステム構築に関する研究」

1. 管理栄養士養成施設で、「栄養教育論」「臨床栄養学」「公衆栄養学」「給食経営管理論」を担当されている専任教員（各科目代表1名、合計4名）がお答えください。
2. 本調査は個人（教員、学生）の能力や養成施設ごとの実態を調べるものではありません。得られた情報は厳正に管理し、標記研究事業の目的以外には使用しません。
3. 本調査は任意の調査であり、回答しないことによって不利益を被ることはありません。本調査の内容に関するお問い合わせ先は以下のとおりです。

伊達ちぐさ 〒690-0092 兵庫県姫路市新在家本町1-1-12 兵庫県立大学環境人間学部食環境栄養課程  
TEL&FAX: 079-292-9334 (直通) E-mail: chigusa@shse.u-hyogo.ac.jp

4. 調査票は、貴施設の管理栄養士課程の4年生（平成22年度現在）の管理栄養士としての専門的実践能力（コンピテンシー）の到達度に関する質問（問1～36）と、回答者に関する質問（8問）を含みます。全ての質問にお答えください。
5. 回答は、別紙のマークシートに、次のことに注意してご記入ください。

### マークシート記入上の注意点

- (1) マークシートは1枚です。
- (2) 左上の氏名、年月日、および番号欄は空白のままにしてください。
- (3) マークシートでは、各質問に対する答えを1～5の数字の中からあてはまるもの1つを選び、マークシート上の該当する番号をはっきりとマークしてください。
- (4) 必ずHB～Bの濃さの鉛筆かシャープペンシルを使用してください。ボールペンやペンは使えません。
- (5) マークのしかたが薄いもの、正しくマークされていないものは読み取れません。
- (6) 間違ってマークしたところを訂正する場合は、鉛筆のあとが残らないように、プラスチック消しゴムで完全に消してください。修正液など消しゴム以外のものは使えません。
- (7) マークシートは折り曲げないようにしてください。

貴施設管理栄養士課程の4年生（H22年度現在）の専門的な実践能力（コンピテンシー）の到達度に関しておたずねします。問1～36の項目について、もっともあてはまる回答を1～5よりひとつ選び、マークシートにその番号をマークしてください。

現時点の4年生に当てはまる到達度はどれくらいだと思いますか。

- |                |           |
|----------------|-----------|
| 1: ほぼ全員ができない   | (0-20%)   |
| 2: かなりの学生ができない | (20-40%)  |
| 3: 約半数の学生ができる  | (40-60%)  |
| 4: かなりの学生ができる  | (60-80%)  |
| 5: ほぼ全員ができる    | (80-100%) |

- 1 コミュニケーションによって、良好な人間関係やネットワークを築く
- 2 自分に与えられた役割を認識し、他の職種と相互理解しながら協働する
- 3 患者・クライアント・住民への倫理的配慮（人権の尊重、インフォームドコンセント、個人情報保護）を行う
- 4 健康・栄養に関する統計情報を収集し、現状を把握する
- 5 関連分野の論文・報告書などからエビデンスに基づく情報を入手し、活用する
- 6 社会における医療・栄養問題や食糧・環境問題に関する情報を集める
- 7 個人や地域の栄養課題の解決のために、調査研究を計画・実施する
- 8 調査研究により得られたデータについて、適切な集計・統計方法を選択し、解析する
- 9 人体のエネルギーバランスや各栄養素の働きや代謝を理解し、説明を行う
- 10 食品成分・特性について理解し、献立作成や調理を行う
- 11 対象者のライフステージ・ライフスタイル・嗜好・摂食機能等に応じた献立を作成する
- 12 食中毒予防など、適切な衛生管理を行う
- 13 食品の規格基準、安全に関する法規や制度を理解し、健康被害を防止するための説明を行う
- 14 保健・医療・福祉・健康づくりに関する法規や制度の現状を把握する
- 15 対象者（対象集団）のエネルギーや栄養素の摂取の過不足を防ぐため、食事摂取基準を活用する
- 16 食品成分表の特性を理解し、献立作成や栄養教育に活用する
- 17 対象者の行動変容を促すために、行動科学の理論やモデルを活用する
- 18 対象者の状況を受容し、行動変容を促すために、カウンセリングのスキルを活用する
- 19 目的や対象者に応じた食事調査法を選択・実施し、アセスメントに用いる
- 20 対象者・喫食者の食に関する知識、態度、行動をアセスメントする

（マークシートの列が変わります）

- 21 対象者の身体状況や目的に応じたアセスメント方法を選択し、実施する
  - 22 血液及び尿中の代表的な生化学成分値を判定し、アセスメントに用いる
  - 23 問診、カルテ、看護記録やバイタルサインなどの情報をアセスメントに活用する
  - 24 アセスメントの結果から食生活の改善すべき課題を抽出する
  - 25 課題の中から優先順位を決定し、食生活改善のための目標を設定する
  - 26 食生活改善のための目標の達成に向けた計画を立てる
  - 27 対象者のライフステージやライフスタイルに応じた栄養教育を実施する
  - 28 計画実施中や実施後の経過をモニタリングし、評価を行う
  - 29 評価に基づき必要な計画の見直しと修正を行う
  - 30 疫学的な考え方に基づき、地域のアセスメントをする
  - 31 地域の栄養課題を解決するのに必要な社会資源を把握する
  - 32 地域の栄養課題を解決するために、ヘルスプロモーション、食環境整備の観点を含めて改善計画を立てる
  - 33 医療における専門職種役割を理解し、管理栄養士の役割について説明を行う
  - 34 患者の病状や栄養状態に応じた献立作成や食事形態の提案を行う
  - 35 患者の病状や栄養状態に応じた栄養指導を行う
  - 36 多数の人々への食事提供（発注、購買、検収、保管、大量調理、衛生管理等）を行う
- 

**マークシートに印刷された「回答者に関する質問（Ⅰ～Ⅷ）」にもお答えください。**

~~~~~ これでアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。~~~~~



|      |   |   |   |
|------|---|---|---|
| フリガナ | 年 | 月 | 日 |
| 氏名   |   |   |   |

- 記入欄・マーク欄以外には記入しないで下さい。
- 鉛筆で、しっかり濃くマークして下さい。
- 間違えた場合には、消しゴムで、きれいに消して下さい。

マーク例

|   |  |
|---|--|
| 良い例   | 悪い例  |
| <input type="radio"/> ○ <input type="radio"/> ● | <input type="radio"/> ○ <input checked="" type="radio"/> ● |

| 番号 | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
|    | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
|    | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
|    | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 |
|    | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |
|    | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 |
|    | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 |
|    | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 |
|    | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 |
|    | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 |
|    | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 |

| 問  | 解答欄       | 問  | 解答欄       | 問  | 解答欄       | 問  | 解答欄       | 問   | 解答欄       |
|----|-----------|----|-----------|----|-----------|----|-----------|-----|-----------|
| 1  | ① ② ③ ④ ⑤ | 21 | ① ② ③ ④ ⑤ | 41 | ① ② ③ ④ ⑤ | 61 | ① ② ③ ④ ⑤ | 81  | ① ② ③ ④ ⑤ |
| 2  | ① ② ③ ④ ⑤ | 22 | ① ② ③ ④ ⑤ | 42 | ① ② ③ ④ ⑤ | 62 | ① ② ③ ④ ⑤ | 82  | ① ② ③ ④ ⑤ |
| 3  | ① ② ③ ④ ⑤ | 23 | ① ② ③ ④ ⑤ | 43 | ① ② ③ ④ ⑤ | 63 | ① ② ③ ④ ⑤ | 83  | ① ② ③ ④ ⑤ |
| 4  | ① ② ③ ④ ⑤ | 24 | ① ② ③ ④ ⑤ | 44 | ① ② ③ ④ ⑤ | 64 | ① ② ③ ④ ⑤ | 84  | ① ② ③ ④ ⑤ |
| 5  | ① ② ③ ④ ⑤ | 25 | ① ② ③ ④ ⑤ | 45 | ① ② ③ ④ ⑤ | 65 | ① ② ③ ④ ⑤ | 85  | ① ② ③ ④ ⑤ |
| 6  | ① ② ③ ④ ⑤ | 26 | ① ② ③ ④ ⑤ | 46 | ① ② ③ ④ ⑤ | 66 | ① ② ③ ④ ⑤ | 86  | ① ② ③ ④ ⑤ |
| 7  | ① ② ③ ④ ⑤ | 27 | ① ② ③ ④ ⑤ | 47 | ① ② ③ ④ ⑤ | 67 | ① ② ③ ④ ⑤ | 87  | ① ② ③ ④ ⑤ |
| 8  | ① ② ③ ④ ⑤ | 28 | ① ② ③ ④ ⑤ | 48 | ① ② ③ ④ ⑤ | 68 | ① ② ③ ④ ⑤ | 88  | ① ② ③ ④ ⑤ |
| 9  | ① ② ③ ④ ⑤ | 29 | ① ② ③ ④ ⑤ | 49 | ① ② ③ ④ ⑤ | 69 | ① ② ③ ④ ⑤ | 89  | ① ② ③ ④ ⑤ |
| 10 | ① ② ③ ④ ⑤ | 30 | ① ② ③ ④ ⑤ | 50 | ① ② ③ ④ ⑤ | 70 | ① ② ③ ④ ⑤ | 90  | ① ② ③ ④ ⑤ |
| 11 | ① ② ③ ④ ⑤ | 31 | ① ② ③ ④ ⑤ | 51 | ① ② ③ ④ ⑤ | 71 | ① ② ③ ④ ⑤ | 91  | ① ② ③ ④ ⑤ |
| 12 | ① ② ③ ④ ⑤ | 32 | ① ② ③ ④ ⑤ | 52 | ① ② ③ ④ ⑤ | 72 | ① ② ③ ④ ⑤ | 92  | ① ② ③ ④ ⑤ |
| 13 | ① ② ③ ④ ⑤ | 33 | ① ② ③ ④ ⑤ | 53 | ① ② ③ ④ ⑤ | 73 | ① ② ③ ④ ⑤ | 93  | ① ② ③ ④ ⑤ |
| 14 | ① ② ③ ④ ⑤ | 34 | ① ② ③ ④ ⑤ | 54 | ① ② ③ ④ ⑤ | 74 | ① ② ③ ④ ⑤ | 94  | ① ② ③ ④ ⑤ |
| 15 | ① ② ③ ④ ⑤ | 35 | ① ② ③ ④ ⑤ | 55 | ① ② ③ ④ ⑤ | 75 | ① ② ③ ④ ⑤ | 95  | ① ② ③ ④ ⑤ |
| 16 | ① ② ③ ④ ⑤ | 36 | ① ② ③ ④ ⑤ | 56 | ① ② ③ ④ ⑤ | 76 | ① ② ③ ④ ⑤ | 96  | ① ② ③ ④ ⑤ |
| 17 | ① ② ③ ④ ⑤ | 37 | ① ② ③ ④ ⑤ | 57 | ① ② ③ ④ ⑤ | 77 | ① ② ③ ④ ⑤ | 97  | ① ② ③ ④ ⑤ |
| 18 | ① ② ③ ④ ⑤ | 38 | ① ② ③ ④ ⑤ | 58 | ① ② ③ ④ ⑤ | 78 | ① ② ③ ④ ⑤ | 98  | ① ② ③ ④ ⑤ |
| 19 | ① ② ③ ④ ⑤ | 39 | ① ② ③ ④ ⑤ | 59 | ① ② ③ ④ ⑤ | 79 | ① ② ③ ④ ⑤ | 99  | ① ② ③ ④ ⑤ |
| 20 | ① ② ③ ④ ⑤ | 40 | ① ② ③ ④ ⑤ | 60 | ① ② ③ ④ ⑤ | 80 | ① ② ③ ④ ⑤ | 100 | ① ② ③ ④ ⑤ |

**回答者に関する質問**  
 あてはまるものひとつを選んで○をつけてください。( )には数字をご記入ください。

I 主担当科目  
 1 栄養教育論 2 臨床栄養学  
 3 公衆栄養学 4 給食経営管理論

II 上記科目の担当年数(通算) ( ) 年

III 年齢 ( ) 歳

IV 性別 1 女性 2 男性

V 現在の職階  
 1 教授 2 准教授 3 講師・助教  
 4 その他

VI 学位(最終)  
 1 博士 2 修士 3 学士 4 その他

VII 管理栄養士としての実務経験  
 (教育機関は含まない)  
 1 あり 2 なし

VIII 実務経験年数(通算) ( ) 年

## 管理栄養士教育システム構築に関する基礎調査

平成22年度厚生労働科学研究事業

「保健・医療の栄養管理サービスの評価に基づく専門的人材育成のシステム構築に関する研究」

1. 貴施設（管理栄養士養成課程）のどなたか1名がお答えください。
2. 下記の質問について、（ ）欄に数字をご記入ください。
3. 「教員用」「4年生用」のマークシートと一緒にご返送ください。
4. 本調査に関連するご意見がございましたら、自由記述欄に記入をお願いします。

お忙しいところご負担をおかけ致しますが、何卒ご協力をお願い申し上げます。

本調査の内容に関するお問い合わせ先は以下のとおりです。

伊達ちぐさ 〒690-0092 兵庫県姫路市新在家本町1-1-12 兵庫県立大学環境人間学部食環境栄養課程  
TEL&FAX: 079-292-9334 (直通) E-mail: chigusa@shse.u-hyogo.ac.jp

貴施設（管理栄養士養成課程）についてお尋ねします。

いずれも、平成23年1月時点の状況をお答えください

1. 4年生の数 ( )名

2. 管理栄養士養成課程における専任教員数 ( )名

\* 教員とは、管理栄養士養成施設カリキュラムにおける専門基礎分野  
および専門分野担当教員（助手は除く）のことを指します。

3. 2のうち、管理栄養士の資格を有する教員数 ( )名

〔自由記述欄〕



「保健・医療の栄養管理サービスの評価に基づく専門的人材育成のシステム構築に関する研究」

調査協力管理栄養士養成施設一覧

(50音順掲載)

愛知学泉大学家政学部家政学科管理栄養士専攻  
茨城キリスト教大学生生活科学部食物健康科学科  
大阪青山大学健康科学部健康栄養学科  
大阪市立大学生生活科学部食品栄養科学科  
大阪樟蔭女子大学学芸学部食物栄養学科管理栄養士専攻  
大阪府立大学総合リハビリテーション学部総合リハビリテーション学科栄養療法学専攻  
大妻女子大学家政学部食物学科管理栄養士専攻  
大手前栄養学院専門学校衛生専門課程管理栄養学科  
岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科  
岡山県立大学保健福祉学部栄養学科  
お茶の水女子大学生生活科学部食物栄養学科食物栄養学講座  
鹿児島純心女子大学看護栄養学部健康栄養学科  
活水女子大学健康生活学部食生活健康学科  
神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部栄養学科  
鎌倉女子大学家政学部管理栄養学科  
川崎医療福祉大学医療技術学部臨床栄養学科  
関西福祉科学大学健康福祉学部福祉栄養学科  
畿央大学健康科学部健康栄養学科  
北里大学保健衛生専門学院栄養専門課程管理栄養科  
岐阜女子大学家政学部健康栄養学科  
九州栄養福祉大学食物栄養学部食物栄養学科  
九州女子大学家政学部栄養学科  
京都栄養医療専門学校管理栄養士科  
京都光華女子大学人間科学部健康栄養学科  
京都女子大学家政学部食物栄養学科  
京都府立大学生命環境学部食保健学科  
共立女子大学家政学部食物栄養学科管理栄養士専攻  
近畿大学農学部食品栄養学科  
金城学院大学生活環境学部食環境栄養学科  
熊本県立大学環境共生学部食健康科学科  
くらしき作陽大学食文化学部栄養学科  
県立広島大学人間文化学部健康科学科  
甲子園大学栄養学部栄養学科  
高知女子大学健康栄養学部健康栄養学科  
神戸学院大学栄養学部栄養学科  
神戸松蔭女子学院大学人間科学部生活学科食物栄養専攻  
神戸女子大学家政学部管理栄養士養成課程  
郡山女子大学家政学部食物栄養学科  
相模女子大学栄養科学部管理栄養学科  
至学館大学健康科学部栄養科学科  
滋賀県立大学人間文化学部生活栄養学科  
四国大学生生活科学部管理栄養士養成課程  
静岡県立大学食品栄養科学部栄養生命科学科  
実践女子大学生生活科学部食生活科学科管理栄養士専攻  
十文字学園女子大学人間生活学部食物栄養学科  
尚綱大学生生活科学部栄養科学科  
尚綱学院大学総合人間科学部健康栄養学科  
城西大学薬学部医療栄養学科  
昭和女子大学生生活科学部管理栄養学科



女子栄養大学栄養学部実践栄養学科  
 仙台白百合女子大学人間学部健康栄養学科管理栄養専攻  
 千里金蘭大学生活科学部食物栄養学科  
 相愛大学人間発達学部発達栄養学科  
 高崎健康福祉大学健康福祉学部健康栄養学科  
 中国学園大学現代生活学部人間栄養学科  
 帝塚山大学現代生活学部食物栄養学科  
 帝塚山学院大学人間科学部食物栄養学科  
 天使大学看護栄養学部栄養学科  
 東亜大学医療学部医療栄養学科  
 東海学園大学人間健康学部管理栄養学科  
 東京栄養食糧専門学校栄養専門課程管理栄養士科  
 東京家政大学家政学部栄養学科管理栄養士専攻  
 東京家政学院大学家政学部健康栄養学科  
 東京聖栄大学健康栄養学部管理栄養学科  
 東京農業大学応用生物科学部栄養科学科管理栄養士専攻  
 同志社女子大学生活科学部食物栄養科学科管理栄養士専攻  
 東北生活文化大学家政学部家政学科健康栄養学専攻  
 徳島大学医学部栄養学科  
 徳島文理大学人間生活学部食物栄養学科  
 長崎県立大学看護栄養学部栄養健康学科  
 長崎国際大学健康管理学部健康栄養学科  
 名古屋学芸大学管理栄養学部管理栄養学科  
 名古屋経済大学人間生活科学部管理栄養学科  
 名古屋女子大学家政学部食物栄養学科  
 名古屋文理大学健康生活学部健康栄養学科  
 名寄市立大学保健福祉学部栄養学科  
 奈良女子大学生活環境学部食物栄養学科  
 新潟医療福祉大学健康科学部健康栄養学科  
 西九州大学健康福祉学部健康栄養学科  
 日本女子大学家政学部食物学科管理栄養士専攻  
 人間総合科学大学人間科学部健康栄養学科  
 ノートルダム清心女子大学人間生活学部食品栄養学科  
 羽衣国際大学人間生活学部人間生活学科食物栄養専攻  
 浜松大学健康プロデュース学部健康栄養学科  
 兵庫大学健康科学部栄養マネジメント学科  
 広島女学院大学生活科学部管理栄養学科  
 広島文教女子大学人間科学部人間栄養学科  
 福岡女子大学人間環境学部栄養健康科学科  
 藤女子大学人間生活学部食物栄養学科  
 別府大学食物栄養科学部食物栄養学科  
 北海道文教大学人間科学部健康栄養学科  
 松本大学人間健康学部健康栄養学科  
 南九州大学健康栄養学部管理栄養学科  
 美作大学生活科学部食物学科管理栄養士養成課程  
 宮城学院女子大学学芸学部食品栄養学科  
 武庫川女子大学生活環境学部食物栄養学科  
 安田女子大学家政学部管理栄養学科  
 山口県立大学看護栄養学部栄養学科  
 酪農学園大学酪農学部食品科学科健康栄養学専攻  
 和洋女子大学家政学群健康栄養学類健康栄養学専修

施設名は（社）全国栄養士養成施設協会発行の管理栄養士・栄養士養成施設一覧に準じました。

## コンピテンシー開発の考え方と枠組み（国内外の文献レビュー）

研究分担者 永井 成美 （兵庫県立大学 准教授）  
赤松 利恵 （お茶の水女子大学大学院 准教授）  
研究協力者 長幡 友実 （修文大学 講師）

### 研究要旨

本研究では、管理栄養士のコンピテンシーを開発するために、国内外のコンピテンシーに関する文献をレビューした。その結果、我が国では、行政保健師、看護師などの保健医療職において、コンピテンシーモデルや卒前教育の到達目標としてのコンピテンシーが開発されていた。さらに、海外の例として、米国の登録栄養士では、学生の達成レベル（登録時）、実務家レベル、および教育者レベルの3レベルのコンピテンシーが開発され、それらに基づいた卒前、卒後教育が行われていることが明らかにされた。我が国の管理栄養士のコンピテンシーモデル開発やモデルに基づく教育システム構築は十分といえず、今後開発する必要がある。本レビューの結果から、管理栄養士のコンピテンシーモデルとして、基本コンピテンシー、管理栄養士としての共通コンピテンシー（態度、知識・スキル、PDS サイクルにもとづくマネジメント能力）、職域別コンピテンシー（公衆栄養、臨床栄養、給食経営管理等）の3層構造のコンピテンシーモデルが提案された。

### A. 研究目的

管理栄養士のコンピテンシー（Competency）開発のために、文献をレビューし、コンピテンシーの定義やコンピテンシー開発の考え方と枠組みの整理を行うことを目的とした。

### B. 研究方法

コンピテンシーの定義や専門職におけるコンピテンシーモデル開発等に関する文献・既存資料を収集し、その内容の検討と整理を行った。

専門職のコンピテンシーは公衆衛生専門職と他職種（保健師、薬剤師、看護師）を中心に調べ、さらに米国登録栄養士教育におけるコンピテンシーに関する文献を調べ、内容を整理した。

### C. 研究結果

#### 1. コンピテンシーの定義及びモデル開発

##### 1) コンピテンシーの概念と定義

コンピテンス（Competence）は、1973年ハーバード大学心理学者 David C. McClelland（デイビッド・マクレランド）によって提唱された概念で、「ある職務または状況に対し、基準に照らして効果的、あるいは卓越した業績を生む原因として関わっている個人の根源的特性」と定義されている（資料1）<sup>1,2)</sup>。学力といった学習によって習得した能力だけでなく、その個人の根源にある特性であり、行動を予測するものである。

##### 2) コンピテンシーの特性

以来、コンピテンシーは一般的に「職務で一貫して高い業績を出す人の行動特性・行動様式」と捉えられており<sup>3)</sup>、さまざまな職種においてコンピテンシーの開発が行われ、人材育成や人事管理等に活用されている（資料2）。コンピテンシーは業績（Performance）の違いを生む特性であることから、その職業において必要な業績

を生むコンピテンシーを見つけることが重要である。

### 3) コンピテンシーのモデル図

コンピテンシーは、「スキル・知識」などの表層に現れ比較的開発が容易である部分、「特性・動因」などの中核的人格と呼ばれ外からは見えなく開発が困難とされる部分、両者の中間に位置する「態度や価値観」などの自己イメージより構成される部分より構成され、その概念は「冰山モデル」または「多重円モデル」として表現されている（資料3）<sup>1~3)</sup>。

### 4) コンピテンシーモデルの開発

コンピテンシーモデルの開発は、専門家パネルを用いた短期的（短縮的）な研究デザイン、または、卓越したパーフォーマーと平均的なパーフォーマーの職務コンピテンシーのアセスメントを経て妥当性を検証する伝統的なコンピテンシー研究デザインにより行われる（資料4）<sup>1,2)</sup>。また、開発アプローチとしては、コンピテンシーモデルをゼロから作成する場合と、既存モデルを利用する場合の2種類がある（資料5）。いずれも、基準以下、基準、基準以上といったパフォーマンスのランクの人を選び、その人たちの行動について、項目抽出あるいは妥当性の検討を行っている。

## 2. 専門職のコンピテンシー

専門職のコンピテンシーの定義と枠組みを調べた結果、コンピテンシーは、より人格に近い基本コンピテンシー (A)、その専門職の共通コンピテンシー (B)、および職域別コンピテンシー (C) の3層構造であることが明らかとなった。そこで、以降の専門職のコンピテンシーに関するレビューでは、この3つのコンピテンシーに基づき整理した。なお、レビューにおいて、Bについては、保健医療職としての共通コンピテンシーを Ba、管理栄養士としての共通コンピテンシーを Bb とし国内外の事例の検討と文献の整理を行った（資料6）。

### 1) 国内の事例－国家公務員採用 I 種試験－

国内では、人事院が実施する国家公務員採用 I 種試験において、コンピテンシーの概念を導入した人物試験が実施されている。3) のコンピテンシーモデルの中では、行動に現れ、結果や成果と結びつく「能力・特性」（中核的人格、あるいはそれに近い部分）を6つの評定項目で評価するものである（資料7）<sup>4,5)</sup>。

### 2) 公衆衛生専門職（国内）

公衆衛生専門職は公共性が高い職種であるため、資料7の国家公務員のコンピテンシーモデルを「基本コンピテンシー」とすることが望ましいとの考えが示されている（資料8）。国内の公衆衛生専門職のコンピテンシーの枠組みは、人事院の6つの評定項目を踏まえた「基本コンピテンシー」と「専門職のコンピテンシー」で構成することが提案されている（資料8）。また後者は、共通の専門能力である「Core competency（共通コンピテンシー）」と、専門職種ごとの「Professional competency（専門コンピテンシー）」より構成される（資料9）<sup>6~10)</sup>。

### 3) 公衆衛生専門職（海外）

海外の公衆衛生専門職では、WHOの保健医療分野次世代育成のための教育プログラム、WHOグローバルコンピテンシーモデル<sup>11,12)</sup>、英国の国民保健サービス職員の人材評価の枠組み<sup>13,14)</sup>、英国保健省の公衆衛生実践のための業務基準<sup>13,15)</sup>、米国の公衆衛生専門職<sup>16~22)</sup>について、どのような知識・スキルがコンピテンシーとして挙げられているのかをレビューした（資料10）。

### 4) 国内専門職（実務）－管理栄養士（新任）と保健師－

公衆衛生専門職（国内）でコンピテンシーの概念を導入している例として、地域保健従事者新任時期の教育目標（採用5年以内・管理栄養士を含む）、および保健師についてレビューした（資料11）<sup>23~34)</sup>。

### 5) 国内専門職（教育）－看護職－

看護職については、コンピテンシーを「大学

教育の到達目標」と捉えた文献<sup>35)</sup>と報告書<sup>36)</sup>の2例をレビューした。前者は、学士課程と修士課程における教育の違いをコンピテンシーの比較において示しており、後者は、看護基礎教育において学生が卒業までに到達すべき看護技術についてデルファイ法を用いて項目を決定した厚生労働省科研の報告書である。両文献ともに、到達目標（コンピテンシー）決定のプロセスが詳述されている（資料12）。

### 3. 米国登録栄養士のコンピテンシー

米国では、登録栄養士（RD）の資格が付与されるレベル（初級レベル実務者）の Competent が、栄養士教育認定委員会（Commission on Academic for Dietetics Education: CADE）による「栄養士教育で習得すべき基礎知識と技術能力（2008年）」として示されている（資料13・図1、表1）<sup>37-39)</sup>。これらは同時に、栄養専門家として教育を受ける学生の達成目標にもなっている。

また、栄養専門家としての実務範囲は3つのブロック（枠組み）として整理されており、Block 1 は、初級レベルで教育・トレーニングされるコアとなる責務、Block 2 は、知識、スキル、経験を基にした実務、Block 3 は、専門家が役割や仕事のニーズの変化に対応するためのガイド<sup>40)</sup>が示されている（資料13・表2）。この3つの枠組みは流動的であり、新しい管理栄養士の役割が出てきた時にも柔軟に対応できるように考えられている。

患者とクライアントへの栄養ケアに直接関連する実務能力である SOP（Standard of Practice） in Nutrition Care、及び直接的な栄養ケア以外の実務能力である SOPP（Standard of Professional Performance） for RDs<sup>41)</sup>は、上記枠組みの Block 2 に含まれ、これらも登録栄養士実務者のコンピテンシーを示すものと考えられる（資料13・表3）。

### D. 考察

本研究では、管理栄養士のコンピテンシーを開発するために、コンピテンシーに関する文献をレビューした。その結果、コンピテンシーは、「ある職務で卓越した業績を出せる人材の共通する特性」と定義されていることが明らかとなった。また、我が国では、行政保健師、看護師などの保健医療職において、養成教育の到達目標としてのコンピテンシーが開発されていた。また、海外の同一職種の例として米国登録栄養士を調べたところ、学生教育の達成レベル、実務家レベル、および教育者レベルの3種類のコンピテンシーが開発されていた。一方我が国の管理栄養士については、厚生労働省の検討会による「採用5年以内」の実務者レベルのコンピテンシー<sup>10)</sup>、および最近、須永らにより報告された「病院管理栄養士において求められる実践能力（Competency）」の評価基準<sup>42)</sup>とまだ部分的な検討に留まっていた。従って、日本の管理栄養士のコンピテンシー開発は現時点では十分とはいえず、今後開発する必要性が高いと考えられる。

今回の文献レビューにおいて、コンピテンシーは必ず行動として表出することを特徴とすること、必要度や到達段階に応じてコンピテンシーにはいくつかの種類があり、層化構造を成すことが明らかとなった。以上の結果からは、管理栄養士のコンピテンシーモデルを開発するためには、図1に示したような、基本コンピテンシー、共通コンピテンシー、職域別コンピテンシーの3層構造でとらえると整理しやすいと考えられた。

3層の中心円である図1・Aは、管理栄養士の中核である「基本コンピテンシー」であり、「価値観、自己確信、意欲、態度」が含まれると整理した。次に、図1・Bの管理栄養士としての「共通コンピテンシー」は、患者・住民など対象者への倫理的配慮を行うといった態度（B1）や保健・医療に関する法規や制度や食事摂取基準の